

— 菊池寛記念館通信 —

2020
第 51 号

春の菊池さん

菊池寛記念館コレクション展



「あの奥さんの方は、蠣フライを喰べなかつたかい。」
「ええ、召上りましたよ。御自分のを召し上った上に、
旦那さまの方にも召し上りましたよ。」

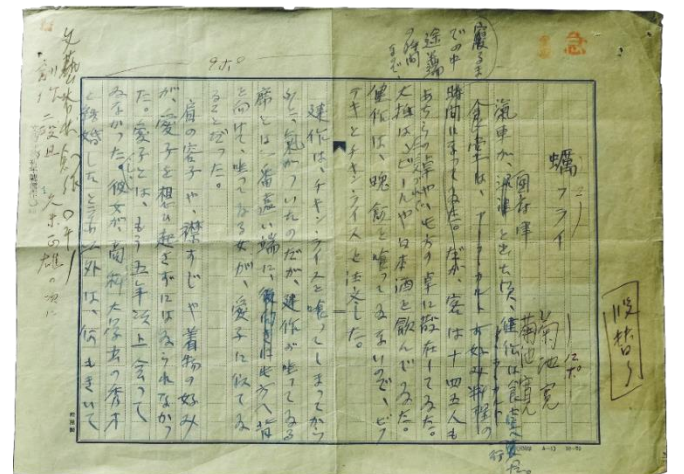
菊池寛「蠣フライ」より



4/7 (火) ～ 5/31 (日)



かき
「蠣フライ」とは、菊池寛が昭和 2 年『文藝春秋』に発表した短編小説です。（『菊池寛全集 第 3 巻』所収）主人公は、食堂でかつての恋人・愛子に似た女性を見かけます。愛子は蠣フライが大好物でした。主人公は、女性が愛子か確かめたいと思いますが、結婚している彼女の幸せを壊してはならないと思い…というストーリーです。菊池寛記念館は、この「蠣フライ」の原稿を新しく収蔵しました。本展では、菊池寛直筆原稿「蠣フライ」や菊池家で使われていた飯櫃などを展示し、菊池寛や同時代の作家たちのグルメエピソードを御紹介します。



菊池寛直筆原稿「蠣フライ」

✿ 時間…9 時から 17 時（入館は 16 時 30 分まで）

✿ 休館日…月曜日（ただし 5/4 は開館、5/7 休館）

✿ 会場…菊池寛記念館内 研究閲覧室

✿ 入館料…無料（常設展示室は有料）



スペイン風邪^{かぜ}をとりあげた菊池寛の作品

神の如く弱し（大正9年1月）

（『菊池寛全集 第2巻』所収）

菊池寛の友人・久米正雄が流行性感冒（スペイン風邪）にかかり、夏目家が金銭的援助を申し出た事件を元に書かれた小説（久米は夏目漱石の長女・筆子に失恋、筆子は久米の友人・松岡譲と結婚した）。同じ出来事を久米は「和魂」、松岡は「回想の久米・菊池」に書いているので読みくらべてみるのもオススメ。

マスク（大正9年7月）

（『菊池寛全集 第2巻』所収）

発表当初は「私の生活から」という副題がついていた、自身のマスク生活の話。心臓が悪いため流感に伝染しないよう常にマスクを着けていた寛が、ある暑い日にふと気恥しくなってマスクを外していると、堂々とマスクをしている男に会い、男の勇気に圧迫された…とのお話です。



マスク姿の
菊池寛
（昭和14年）



【行事案内】

＊ ミニコレクション展 ＊

・近代スポーツと文士（仮）

6月9日（火）～8月30日（日）

会場：菊池寛記念館 研究閲覧室

入場無料 ※常設展示は有料です

＊ 菊池寛記念館 文芸講座 ＊

会場：3階・第一集会室

定員：80人 **入場無料・申込不要**

※第1回は6月を予定しておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響などにより、変更する場合がございます。詳細は後日、ホームページやチラシ、市報、館内掲示などにてお知らせします。

＜お知らせ＞ 古本まつりなど、5月までの行事はすべて中止となりました。



菊池寛とスペイン風邪^{かぜ}



スペイン風邪とは、大正7（1918）年から大正9（1920）年頃にかけて世界各国で流行したインフルエンザです。スペイン国王もかかり、多く報道されたため、「スペイン風邪」という俗称で呼ばれました。この頃、菊池寛は30歳（大正7年当時）。寛の友人達も次々とかかり、芥川龍之介は辞世の句を作ったほどでした。寛はうがいをし、マスクを着用、外出を控えたりと予防に努め無事だったそうです。

春の菊池さん 発行：令和2年4月10日 菊池寛記念館
第51号 高松市昭和町一丁目2-20／087-861-4502

<https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/kosodate/bunka/kikuchikan/index.html>

